

< 来週の聖書から >

【納骨式】25日、私たちは納骨式を行い、姉妹の遺骨を教会納骨堂に埋葬しようとしています。埋葬に関わる全ては“信仰者の証し”であり、教会が兄弟を記念する時、変らない信仰者の証しとして、教会の誉みになります。私たちの教会はこれらの兄弟によってたてあげられ、今も証はなされているのです。個人的なことでは決してありません。

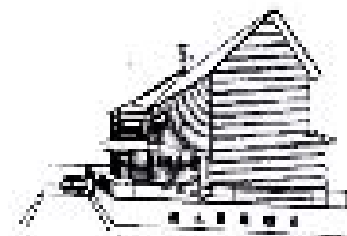
【忘れないでいましょう】洗礼の時のことを思い出しましょう。“あなたは信じますか”と問います。では何を信じたのでしょうか。それは教会が説明することに属します。受洗者が“実は私の信仰は”と言って、教会に評価してもらうことではないのです。反対です。“教会はこのような説明するが、あなたは異議をはさみますか”と聞くのです。“まだよく分からない”という答えを得たら、しばらくしてまた“今度はどうですか”と聞くのです。説明し受け入れ、神と共に過ごす生涯を指し示す責任は、教会にあるようです。

【二つの間違い】このように考えますと、“あの人はまだ”という言葉が教会の中に行き交った時、教会がなすべきことをなしていないのです。繰り返し、説明し祈るべきでしょう。もう一つがよく経験する過ちは、なかなか信仰告白にまで導かれない方々を“教会を乱す敵”にしてしまう時にも現れます。キリストのことを多く問題にする人は、キリストを重要な事としているのです(どうでも良い事だったら、話のネタにもしてくれないでしょう)。聖書箇所のお言葉に“わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である(9:40)”とあるとおりです。私たちがもし“偽クリスチャン!”と罵倒されたとしたら、その罵倒自体“クリスチャンは素晴らしいものだ”と告白しているのです。ヨハネの言葉“わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったので、やめさせました(9:38)”の言葉が、納得できると思います。私たちが伝道するのは、“信仰なんて”と迫害する者の中にあるのです(マタイ5:44:迫害する者の為の祈り)。

【受け入れる主】もう一つの中心は“幼子”です。教会による“子どもの守り”をはっきり示しているようです。“私は大人として告白し、信仰生活を守っている”と宣言した人がどんなに多く、教会から離れているように見えることでしょう。今更“信仰の放棄式”をするわけにもいかない。このような状態に陥った時“そんなに物わかりがわるいのか。御霊で始めたのに、今になって肉で仕上げるというのか(ガラテヤ3:3)”という救いの言葉を覚えているので、この真実への恐れにさいなまれるのです。

週報

2010年 7月 18日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042